

【タイトル】日本人のプロジェクトマネジメント

【概要】

本企画は、日本人のプロジェクトマネージャがボーダレスな世の中で、様々なバックグラウンドの方々とプロジェクトのゴールに向けて歩いていく物語です。国籍、性別、年齢、地理的環境、「当たり前」が異なる中で、とどのように「絆」を作り、深め、時に薄まり、休憩したり、走ったり、バトンを託す時があれば、共に走ることも。どのような心持ち、工夫することでその歩みを豊かにし、ゴールに導いているのか。ゴールに達することと共に大切なはその道のりの時間です。それは、まさに人と人の絆を作っていく時間です。

【想定する読者ターゲット】

- ①世界中のプロジェクトマネージャ、プログラムマネージャ
- ②多国籍環境下で工夫を探している人
- ③PMBOK(\*)を取得しているがマネジメントがうまくゆかない人
- ④リーダーシップの引き出しを増やしたい人

\*Project management body of knowledge certification by PMI institute

【構成案】

第1章 プロジェクトマネジメントとチームの絆

- ・人間だもん、絆どころか反感からのスタート
- ・ワクワクが広がる問題解決時間
- ・曲がりくねっていつの間にかゴール

第2章 日本文化茶道は最高のプロジェクトマネジメントスキルアップの場

- ・想像しつつし準備をする
- ・茶室では全ての人がお茶を愉しむことだけに集中する
- ・礼儀、その場にはいない人・後の人のことも想像する

第3章 長所探しゲーム

- ・全ての人に長所(得意)がことがある
- ・筋トレ、長所をひたすら使ってみる
- ・人にはそれぞれコミュニケーション方法がある プログラミングで会話する人達

第4章 愛すべき人たち

- ・最高に正直すぎて愛されたリーダー
- ・優しいということ
- ・人は変化し続ける、一旦水に流して今をみる

第5章 さあ、あなたの番です

- ・あなた自身の本音とつながる
- ・「言霊」と共に

## 【サンプル原稿】

### 日本人のプロジェクトマネジメント/ Japanese Project management principal

#### 2. Tea ceremony is the best training place for project management skill up

・An organizer and guests focus on enjoying tea as a human being

Have you ever experienced a tea ceremony ? People take off their shoes and get into a tea room from the NIJIRIGUCHI door. The door is a very small door (26 inch cm x 25 inch) . People are just human beings without any title and category. In the Samurai period, a Samurai (Japanese soldier) takes off a sword. A tea ceremony organizer starts preparation weeks ago. An organizer sends an invitation to a guest, thinking about a tea room decoration to adjust with the season and facilities for the ceremony. Guests also think and decide what they wear. An organizer prepares sweets and cleans a room carefully, garden, entrance wherever guests walk and sit. The clan up action also brings an organizer to clean up the heart and make a heart clean. On the tea ceremony day, an organizer and guests focus on enjoying the ceremony. After a ceremony, guests convey appreciation to a organizer and an organizer retrospective a tea ceremony then clean up facilities for a next ceremony. The process, preparing, execution and clean up with retrospective must be the same as the project management process.

What does 'focus on enjoying tea as a human being' mean? In the typical company world, we have titles like Executive, director, manager etc, nationality, nationality, gender, generation, outlook, voice tone. We sometimes have assumptions based on these attributes. On the way to the tea room, we put them aside. In a tea room, an organizer and guests just enjoy tea and think about others. So 'enjoy tea' is the objective and goal. Nothing other and no judgement to others. I always use the principal for project management. Once starting a new project, the project team and stakeholders focus on a goal without attribute and think what we can do with our competence. There is no space for judging others. The principal supports removing noise, stress and setting up sincere connections for project members and stakeholders.

#### 第2章 日本文化茶道は最高のプロジェクトマネジメントスキルアップの場

・茶室では全ての人がお茶を愉しむことだけに集中する

お茶を体験したことはありますか。茶室での開催されるお茶は、躰口(にじりぐち)という約67cm x 64 cm の入り口で履き物を脱ぎ、茶室に入ります。戦国時代、侍は大切な刀を外に置き茶室に入りました。茶室に入るといことは肩書きを一旦横に置き、ただの人になることを意味します。主人(お茶の主催者)は、数週間前から準備を始めます。招待状を送り、季節にあった茶室のしつらえを考え準備します。招かれる客は、季節、時間にあつた服装を準備します。主人は、お茶にあつた菓子を考え、玄関、通り道、茶室、全てを隅々まで清掃します。掃除は、物理的に場を整えるだけでなく、自身の心を整えます。当日、準備を重ねてきた主人と客は、お茶を味わうことだけに集中します。お茶を終えた後、客は主人にお礼を伝えます。主人はその時間を振り返り、茶室、道具を全てきれいに掃除し、次回スムーズに使えるよう元に戻します。これら一連のプロセスはプロジェクトマネジメントそのものです。

「茶室では全ての人がお茶を愉しむことだけに集中する」とはどうことでしょうか。企業社会の生活では、役職、国籍、性別、世代、見た目、声、個人の特徴で人を意識的、無意識的に判断する場面があります。茶室に向かうときそれらは一旦横に置き、ただの人してその場にいます。全員でお茶を愉しむことのみを考えます。私は常にこの考え方を心に留めています。つまり、お茶を愉しむことが目的、ゴールであり、その場にいる人はそのことだけに集中する。各人のできる事を最大限に行う。プロジェクトでも同様に、目的・ゴールに向けてその場にいる人は、自分の能力で何が出来るかを考え、他を思いやりその場にいてもらうようにします。この心持ちのメリットは、なぜだか、無駄を減らし、心を安定させ、関係する人の絆を強めていくのです。

#### 4 People be loved and having many fans

##### ・Kindness

When do you feel people's kindness? Do you try to be kind to others? The latter may not happen. We may not feel people's kindness intentionally. We as human beings are filled with happiness when we spend time with kind people. When we are tired or stubborn, spending time with kind people may help us to feel better.

I worked with one person called Mr. A. Mr.A is a technical professional, a certified baseball judge, a ski coach, a runner and a grandfather. His work and deliverables are always sophisticated and make people feel comfortable. I started thinking about why Mr.A is so nice to people and works well. He also took some people and me skiing together. Mr. A has a favorite, he enjoys doing the favorite. The action makes him keep healthy mentally and physically. Mr. A always smiles and is kind to others. So we feel happy when we work with Mr. A. Mr. A respects himself and his heart voice. He follows his heart and acts. The connection between his brain and his heart brings kindness to others. The connection of our internal self must be a foundation of our lives.

#### 第4章 愛すべき人たち

##### ・優しいということ

どのような場面で「優しさ」を感じますか？優しくしようと行動する時はありますか？後者はないかもしれません。意図的な言動からは「優しさ」を感じることはないかもしれません。そして私たち人間は優しい人と過ごす時、多幸感で満たされることがあります。ちょっと心が疲れたり、硬くなっている時でも心が柔らかくなる場合があります。

かつてお仕事を一緒した方で、Aさんという方がいます。Aさんは、技術者であり、プライベートでは野球の審判、スキースキーのインストラクター、フルマラソンをされ、お孫さんもいらっしゃる方です。丁寧な仕事をされ、いつも誰にでも優しい方です。どうしていつも優しくいられるか、こっそりと観察していました。スキーに連れて行って頂いたりもしました。Aさんは常に大好きな事があり、それを行い、心身とても健康な方なのです。穏やかで、いつもニコニコ、周りに優しい。好きな事があり、それを実行している事、加えて、体を動かすことで健康を保ち、そんな行動が軽やかな心を作られているように感じました。そんな優しいAさんは、周りに好かれ、愛され、共に仕事をすると安心感がありました。ご自身が自分の本音を大切に、それを行動されている、そこから際限ない優しさが生まれているように感じました。自分との絆、本音との絆、生きていく上の基盤かもしれません。

[以上となります。よろしくお願いたします]